

第 5 章

基幹的指導者を対象とする研修

平成 25 年度リーダー研修

森下 敏広

1 はじめに

国立女性教育会館（以下、「NWECC」）は、昭和 52 年の開館以来女性教育の振興を図るため、指導者に対する実践的な研修や女性教育に関する専門的な調査研究を行う、わが国唯一の女性教育ナショナルセンターとして事業を展開してきた。

事業は、「教育・学習支援」「研修」「調査研究」「情報」「国際連携」の 5 つからなり、その中の「研修」は、男女共同参画及び女性教育を推進する人材の育成を担っている。「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」は、女性関連施設、地方公共団体、団体リーダーの 3 者を地域における男女共同参画及び女性教育の推進に係る基幹的指導者と位置づけ、その基幹的指導者を対象にして実施している。この研修の対象は、時代と共に広がってきた経緯がある。

当初「婦人教育施設職員のためのセミナー」として、施設職員のみを対象とした研修であったが、平成 18 年度からは女性団体や NPO のリーダー、さらに平成 22 年度からは、地方公共団体における男女共同参画行政担当者も対象に加え現在に至っている。

本研修は、2 泊 3 日の日程に、プレ・ワークショップ「男女共同参画推進

II 実践の展開

の基礎知識」から講演、関係省庁の施策説明、課題把握のディスカッション、先進事例・好事例から学ぶコース別ワークショップ、ネットワークづくりのための情報交換会と、男女共同参画推進の歴史や背景と最新の施策や各地域の実践事例を含んだ総合的な研修である。

本稿では、企画にあたっての前提やねらい、研修の実際、評価と課題について報告したい。

2 本研修の企画にあたって

施策との合致、社会的必要性の経緯

少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等の社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現するため、平成 11 年に男女共同参画基本法が公布・施行され、平成 12 年 12 月には男女共同参画基本計画で、男女共同参画社会を一層推進していくためには、多様な主体（地方公共団体、女性関連施設、民間団体、大学、企業等）が有機的に連携しながら進めていくことを求めている。

平成 24 年に開催された「国立女性教育会館の在り方に関する検討会」では、「男女共同参画を通じて新たな社会を創造するためには、国の責務はもとより重大だが、国民ひとりひとりが、男女共同参画こそが社会の発展と個人の幸福の実現の前提条件であることを明確に認識し、国民的課題として取り組むことが不可欠である。『新生 NWEC』が各省横断的な『戦略的推進機関』と呼ばれるにふさわしい機関となるようイニシアティブを發揮し、男女共同参画社会の実現に向けて最大限の努力を払うよう、強く要望する」とされた。

これらの背景のもと、NWEC では本事業を、女性関連施設、地方公共団体、団体・グループ等の基幹的指導者を対象に、資質・能力の向上を目指し、男女共同参画および女性教育を進めていくための、専門的実践的な研修として位置づけている。

本研修のねらい

NWEC 第3期中期目標（平成23年4月1日から平成28年3月31日まで）を受け、本研修は基幹的指導者に対する重要な研修として実施されており、「研修のねらい」は、全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等を高めることにある。

他事業や他機関との関係

調査研究事業との連携については、会館で実施している調査研究の成果をプログラムに反映させるとともに、情報提供に努めている。また、取り上げる内容については、調査研究から各地域の男女共同参画推進に資するものを厳選し、各組織・機関の事業に活用できるものとしている。

また、他機関との連携・協力については、「女性関連施設管理職コース」について全国女性会館協議会と共催で実施する。これらにより、本事業の周知や各地域のニーズに沿った内容の充実と深化などが期待できる。

評価

NWEC 年度計画では、研修内容、成果、会館への要望等を把握するとともに、次年度の企画・運営に活かすためアンケートを実施し、参加者の85%以上からプラス評価を得ることとされている。このアンケートは、コースごとの集計と全体の集計を行うことにより、コースごとの成果・課題と全体の成果・課題の分析を行う。

また、セミナー終了後、概ね6ヵ月後に、研修成果の活用状況についてフォローアップ調査を行い、事業成果の地域への普及還元の状態、および業務への影響について回答者の80%以上からプラス評価を得ることにしている。

これらの結果を踏まえ、研修の効果的な実施の観点から次年度の研修内容の見直しを行う。

3 2013年のリーダー研修

研修の概要

(1) 研修名

平成25年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための
男女共同参画推進研修」

(2) プログラムの特徴

- ①男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ②女性関連施設管理職と地方公共団体職員と団体等のリーダーとの関係・連携力を高める。(グループ・ワーク、交流の重視)
- ③実践事例を重視したプログラム構成。
- ④研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすというサイクルに結びつくことを考えたプログラム。

(3) 対象

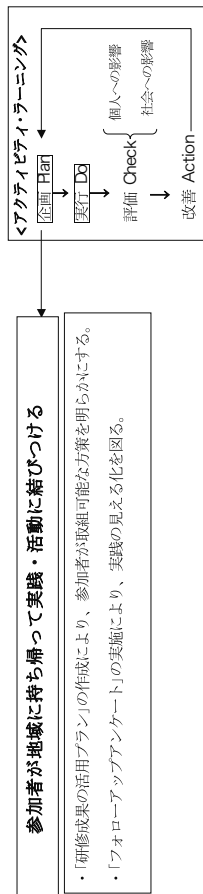
女性関連施設の管理職／男女共同参画行政責任者／地域で男女共同参画を推進する団体・NPO等のリーダー（次世代リーダーを含む）

(4) 目的

- ①地域で男女共同参画を推進するために、地域ニーズに即した課題解決のあり方について学ぶ。
- ②第3次男女共同参画基本計画を実現するための連携・協働関係の構築を支援する。
- ③「研修成果の活用プラン」を作成し、参加者が取り組み可能な方策を明らかにする。さらに、研修後の「フォローアップアンケート」を通して、活用化・実践化を図る。

(5) プログラムデザイン

表1 平成25年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」プログラムのデザイン

[illegible]

II 実践の展開

(6) 日程表

1 日目 6/12 (水)	10:40 ～ 11:40	プレ・ワークショップ「男女共同参画推進の基礎知識」(*希望者のみ参加) 講師：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員
	13:00 ～ 13:20	開会
	13:25 ～ 14:55	講演「男女共同参画の現在とこれからの在り方 ～国際的な視野から日本の男女共同参画を見る～」 講師：橋本 ヒロ子 国連女性の地位委員会日本政府代表
	15:10 ～ 16:40	報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」 講師：内閣府・文部科学省・厚生労働省
	16:50 ～ 17:40	報告「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究」 講師：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員 講師：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員
	19:00 ～ 20:30	情報交流会(*希望者のみ参加)
2 日目 6/13 (木)	9:00 ～ 10:30	講義「男女共同参画社会の実現のために、 今、私たちは何をすればよいのか～現状と課題～」 講師：鹿嶋 敬 実践女子大学人間社会学部教授
	10:40 ～ 12:00	討議「課題把握のためのディスカッション」 報告者：納米 恵美子 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会理事 報告者：萩原 綾子 静岡県健康福祉部子ども未来局局长 報告者：山口 文代 NPO 法人パートナーシップながれやま代表 コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員
	13:20 ～ 17:00	コース別ワークショップⅠ 「事例に学ぶ～男女共同参画の視点で地域課題を解決する組織の在り方～」 ＜女性関連施設管理職コース＞ 【テーマ】「危機を乗り切るために必要な組織マネジメント力」 報告者：田端 八重子 もりおか女性センター センター長 報告者：仁科 あゆ美 一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団理事兼 統括ディレクター ファシリテーター：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長 ＜地方公共団体職員コース＞ 【テーマ】「官官・官民・多様な団体との連携と、施策・事業の推進」 報告者：野口 登志子 鳴門市健康福祉部人権推進課係長 報告者：渡辺 泰浩 大分県消費生活・男女共同参画プラザ課長補佐 ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課副主幹

	13:20 ～ 17:00	<p><団体リーダーコース></p> <p>【テーマ】「地域資源を活かした事業展開」</p> <p>報告者：西田 京子 NPO 法人たすけあい佐賀代表</p> <p>報告者：吉田 恭子 NPO 法人エンツリー理事長</p> <p>ファシリテーター：廣瀬 隆人 宇都宮大学教授</p>
	17:10 ～ 17:40	情報提供「NWEC 情報機能の最新情報」（* 希望者のみ参加）
	19:00 ～ 20:30	自由交流（* 希望者のみ参加）
3 日目 6/14 (金)	8:50 ～ 11:20	<p>コース別ワークショップⅡ</p> <p>「参加者の事例を検討する</p> <p>～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業の在り方～」</p> <p><女性関連施設管理職コース></p> <p>【テーマ】「既成概念を打ち破り、発展する男女共同参画事業の進め方」</p> <p>報告者：中野 伸介 福島県男女共生センター副館長</p> <p>報告者：坂田 静香 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」センター長</p> <p>ファシリテーター：木須 八重子 公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長</p>
		<p><地方公共団体職員コース></p> <p>【テーマ】「第3次男女共同参画基本計画を地域で実現する事業の在り方」</p> <p>報告者：鈴木 紀美代 静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課課長</p> <p>報告者：宮川 ゆり子 小山市総務部男女共同参画課課長</p> <p>ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課副主幹</p>
	11:35 ～ 12:35	<p><団体リーダーコース></p> <p>【テーマ】「第3次男女共同参画基本計画に応える事業の在り方」</p> <p>報告者：米山 麻以子 公益財団法人東京YWCA主任</p> <p>報告者：旭 多貴子 さんかく21・安城、あいち国際交流はなのき会</p> <p>ファシリテーター：廣瀬 隆人 宇都宮大学教授</p>
		<p>全体会「第3次男女共同参画基本計画実現に向けた連携・協働の在り方」</p> <p>報告者：木須 八重子 公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長</p> <p>報告者：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課副主幹</p> <p>報告者：廣瀬 隆人 宇都宮大学教授</p> <p>コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員</p>

II 実践の展開

12:35 ～ 12:38	ふりかえり
12:40	閉会

4 評価と課題

参加状況

募集定員 120 名

申込者数 179 名（内キャンセル 16 名）

参加者数 163 名（プレ・ワークショップのみの参加者 13 名を含む）

定員充足率 135.8%

参 加 者				
コース	女性関連施設管理職	地方公共団体職員	団体リーダー	総計
定員	50	35	35	120
女性	51	29	56	136
男性	12	10	5	27
計	63	39	61	163

研修の目的から振り返る

目的 1：地域で男女共同参画を推進するために、地域ニーズに即した課題解決のあり方について学ぶ。

開会前に希望者を対象に実施するプレ・ワークショップには、地方公共団体職員と団体リーダーが多く参加した。参加者からは「プレ・ワークショップに参加し、これから始まる研修の概論がよくわかりました。細かい統計資料も参考になりました」（女性センター職員）など、男女共同参画の基礎を学習する内容は好評であった。



報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」より

橋本ヒロ子さんの講演、鹿嶋敬さんの講義はともに参加者の多くから高い評価を得た。橋本さんの講演により、国際的な視点から男女共同参画を推進する地域のリーダーに必要な知見や問題意識への理解促進を図ることができた。また、鹿嶋さんの講義は人権意識に裏打ちされた男女共同参画基本計画の策定趣旨がよく理解できるものだった。参加者からは、「男女共同参画推進の基礎知識、課題把握をし、解決する組織の在り方などを学ぶことができた。今後の事業に役立てていきたい」（女性学習センター所長）など、両講師ともに男女共同参画への深い理解と実践からの内容で、研修目的への学びに大きく貢献したと考えている。

コース別ワークショップでは、3コースともテーマの偏りがなく好事例がわかりやすく説明され、参加者のニーズに合致していた。参加者からは、「男女共同参画社会の必要性と課題について、最新の動向も含めて広く学ぶことができた。さらに、男女共同参画センターのミッションについて再認識し、他センターの実例等を聞くこともでき、今後のセンター運営について非常に参考になった」（男女共同参画センター課長）、「ワークショップにより、最新の現状を知ることができた。自分の組織の活動、置かれている状況を客観的

II 実践の展開

に見ることができ、今後のより良い活動に役立てられると感じた。いただいた情報を持ち帰り、組織内で共有し他組織との協働のきっかけにしたい」（団体リーダー）などの声があった。



コース別ワークショップ（女性関連施設管理職コースより）



コース別ワークショップ（地方公共団体職員コースより）



コース別ワークショップ（団体リーダーコースより）

また、管理職コースの小山内さん・木須さん、公共団体コースの荒巻さん、団体リーダーの廣瀬さんと、コース別ワークショップを担当したファシリテーターはそれぞれの持ち味を発揮して、事例報告者を引き立てつつワークでの話し合いを活性化してくださった。

関係3省庁の報告では、受講者のニーズに適合するような説明内容や質問方法の工夫が必要であるなど、運営上の課題も見えた。参加者はすべて地域で男女共同参画を推進するリーダーであり、国や地方公共団体とともに事業を推進する重要な役割も担っていることから、今後は国の行政施策やその背景についても理解の促進を図っていくことをめざしたい。

コース別ワークショップの話し合いグループ分けでは、課題も浮上した。参加者の「グループに同じような職位の方が少なく、また自治体規模にもばらつきがあった。そのため、自組織の事業の参考にする所まで話し合いが深まらなかった」（地方公共団体課長）という意見にあるように、公共団体コースでは課長級と主査級が同一班で話し合いを行ったため、同じ役割や立場としての話し合いに深まりが不足してしまった。コース内でのグループ分けでは役職等を揃えるなど、参加者の地域での役割を意識した分け方により、効果的なワークショップとしていきたい。

目的2：第3次男女共同参画基本計画を実現するための連携・協働関係の構築を支援する。

「課題把握のディスカッション」や「まとめ」で施設管理職・公共団体職員・団体リーダーの3者の協働関係を強調することができた。この3コースの参加者が一同に集うプログラムの「課題把握のディスカッション」「全体会」では、コーディネーターを2つとも西山客員研究員が担当したため、統一感を作り出すことができた。参加者からは「関係省庁や他県等の動向・取り組みを知り、参考となった。センターを運営する上で特に他者との連携・ネットワーク形成の事例を参考にしていきたい」（男女共同参画センター所長）などの意見があるように、研修のねらいをうまく達成することができた。

一昨年までのテーブルを囲む席に座っての情報交換会を立食形式に変えたことや、自由交流で交流したいテーマを事前に聞き、専門職員が交流の進行役を担うことなどの工夫により、活発な意見交換やネットワークづくりができたと思われる。参加者からは「同じ方向を目指す全国の皆さんとの交流は、貴重な機会でした。幸せなことです。今後も連絡をとり合ったり、ご教示いただいたり、自身の業務に活かしていきたい」（地方公共団体係長）などの声をいただいた。

目的3：「研修成果の活用プラン」を作成し、参加者が取組み可能な方策を明らかにする。さらに、研修終了後の「フォローアップアンケート」を通して、活用化・実践化を図る。

「参加者アンケート」では項目の厳選・簡略化と「活用プラン」の統合を図り、記載しやすく改良した。文字も今回から12ポイント・丸ゴシック文字、イラストの挿入など、書きやすさと印象の柔らかさを狙った。回収率は82.0%と昨年より0.2ポイント上昇している。「フォローアップアンケート」でさらに研修成果の活用状況を把握したい。

参加者への事後アンケート（回収率82.0%）では、「この研修全体は、あなたにとって有用でしたか」との問いに、「非常に有用であった」「有用であった」を合わせて100.0%（昨年度98.9%）、また「満足度は、いかがでしたか」と

の問いに「非常に満足した」「満足した」を合わせて 99.2%（昨年度 96.0%）と、いずれも昨年度を上回っている。

5 次年度へ向けて

NWEC は、学習・教育支援を通じ男女共同参画社会を実現するための推進機関として、「教育・学習支援」「研修」「調査研究」「情報」「国際連携」の5つの事業を実施しているが、「研修」での男女共同参画を推進するリーダーの育成は、地域における男女共同参画社会の推進を担う基幹的指導者の研修であり、重要だと考えている。

私は研修の企画に際して、研修に参加したリーダーが「男女共同参画推進のための視点」を身につけた上で、「地域の実態や課題・ニーズの把握」を行い、「課題解決やニーズに応える実践力」を付け、「参加者が地域に持ち帰って実践・活動する」ために研修はいかにあるべきかを常に問い直す必要があると考えている。そのため、次年度の企画に向けて、基幹的指導者の資質・能力の向上にどのような研修が必要なのかを調査・研究するとともに、「フォローアップアンケート」を精査し、次年度の研修内容等に反映させていきたい。

また、かねて参加者から希望のあった研修の時期については、開催日を現在の6月中旬から5月中・下旬へと移動したい。なぜなら、毎年6月23日から29日までの「男女共同参画週間」に向け、各地域ではその準備に入る時期であり、また県や市の議会開催期間と重なり、参加者が多忙な時期を避けたいと考えるからである。

さらに研修効果を全国に効果的に広める観点から、たとえばNWECホームページで研修の内容や資料が閲覧できるなど研修内容の広報や発信を工夫し、男女共同参画社会のより一層の推進を図っていきたい。

最後に、参加者の声を紹介して本稿を締めくくりにしたい。

「今回の研修が男女共同参画の現在（いま）を見つめ、これからの在り方を考えるといったテーマ通りのプログラムであったこと、また、得た情報から

II 実践の展開

男女共同参画の進捗と課題が自分自身の中で整理できたことから、非常に有用な研修であった。地域に帰り、ニーズを拾い上げ、そのニーズに応える事業の工夫に取組みたいと思います。ありがとうございました。」

（もりした・としひろ 国立女性教育会館事業課専門職員）